

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第765号 平成26年7月7日

ハタモク

「私達は何のために働くのか」というのは、「私達は何のために学ぶのか」という問いと同様に、誠に根源的で、難しい問題です。

「高校や大学を出たら、何はともあれ働かなきゃいけない」というのでは、答えになっていません。

勿論、人は生きるためには飯を食わねばならず、住む場所や衣服を手に入れるためにもお金は稼がねばならないというのは、至極当然で間違っはしません。しかし、その発想が全てであるなら、人は動物と一緒に、そこには創造的な営みは感じられません。

もしも、飯を食うために稼ぐという事なら、出来るだけ楽な仕事の方が良いでしょう。出来る事なら、大して働かずにお金が手に入るというのが最高だという事になります。しかし、世の中には、苦勞をいとわず与えられた仕事に没頭する人が少なくありません。それは何故でしょう。多分、仕事には、単に飯の種という事だけでは済まない、何かがある筈です。

「ハタモク」は、そんな素朴な問いに真正面から応えようとする取り組みといえるでしょう。

この「ハタモク」は、2011年5月から活動をスタートしていますが、代表の與良昌浩氏は、3・11（東日本大震災）の後、多くの人の中に「自分自身の生き方の問い直し」が始まったように思えるとし、「ハタモク」はそんな問いの中から生まれたと述べています（「ハタモク」ブログから）。

「ハタモク」では、「就活前の学生」と「第一線で活躍する社会人」が立場や年齢を超えて「何のために働くのか」を気軽に語り合う場を作っていますが、與良氏は「就活前に働く意味や目的を考える事が当たり前になっていけば、『安易な大企業志向』、『有名ブランド志向の企業選び』や『就職＝内定獲得が目的』ではなく、充実した人生を送るためのスタート地点に、就職活動の意味も変わっていくと思う」と述べています（「ハタモク」ブログから）。

この「ハタモク」という活動は、全国に広がりつつあり、北海道でも運営委員会があり、活発に活動が行われているようです。

さて、ここからが私にとっての本題なのですが、「ハタモク」という活動は非常に素晴らしいし、また、重要な取り組みだと評価しています。

ただ、ここで「待てよ」と思ってしまいます。

「ハタモク」には沢山の現役学生が参加していますが、彼等は、大学でもキャリア教育を受けているはずですから、それにもかかわらず学生達から「ハタモク」に関心が集まるのは何故なのでしょう。

それは、大学で受けているはずのキャリア教育と「ハタモク」とは面白さが違うという事かも知れませんが、もう少し厳しい方をすれば、多分、大学で受けているキャリア教育は形骸化していて、彼らの期待には応えていないという事なのではないかと思っています。

大学でのキャリア教育が、単なる就職指導、就職先指導に止まるなら、肝心要のところでは大学離れが進んで行くのも仕方がないかも知れません。(塾頭:吉田 洋一)